



国民春闘共闘

第10号

2016年1月28日

国民春闘共闘委員会

〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館
☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

2016年国民春闘総決起集会

2016年国民春闘勝利へ！

国民春闘共闘委員会・東京春闘共闘会議は1月26日、東京・中野ZEROホールで2016年国民春闘総決起集会を開催しました。首都圏の職場・地域から1100人が参加し、今春闘ですべての労働者の大幅賃上げ・底上げ、戦争法廃止を勝ち取る決意を固めました。



国公労連・郡司一徳中央執行委員と東京春闘共闘・久保桂子幹事の司会で集会がスタート。主催者あいさつに立った国民春闘共闘・森田稔代表幹事（東京春闘共闘代表）は、夏の参議院選挙で改憲勢力3分の2以上をめざすという安倍首相の本気度は尋常ではないと述べ、「国民と歴史に対する挑戦だ」と批判しました。

そして、非正規雇用が増え、実質賃金は減少し、貧困の裾野が広がっていると指摘。「私たちの運動でしか要求を勝ち取るすべはない」と力を込め、「全力をあげて、戦争法廃止、参議院選挙勝利、大幅賃上げなどの要求を実現させよう」と呼びかけました。

2015年を振り返り2016年国民春闘の意義を解説する情勢映像が映し出された後、国民春闘共闘の井上久事務局長が基調報告を行いました。冒頭、2016年国民春闘は暮らしと日本社会の未来がかかった特別な春闘だと強調し、「これまでの延長線でない攻勢的なたたかいを展開しよう」と訴えました。戦争法廃止、憲法改悪阻止を目指す共同、地域を基礎に暮らしを守る共同を発展させることが求められる「歴史的な春闘だ」と強調。大幅賃上げとともに賃金底上げ、格差是正をこれまで以上に重視し、要求にこだわり抜き、やるべきこと、やれることをやり切り、統一闘争に固く結集し、全組合員参加で春闘をたたかい抜こうと呼びかけました。

連帯あいさつに立った航空労組連絡会の津恵（つえ）正三事務局長は、安全運行こそ民間航空の使命であるにもかかわらず、民間航空の軍事利用や攻撃の標的とされた過去の事例をあげながら「戦争する国」の危険性を告発。「本来、世界平和に貢献する産業であるべき民間航空が戦争法で世界に脅威をもたらす産業になる。戦争法廃止のたたかいをともに進めよう」とあいさつしました。

つづいて単産・地域から8組織が2016年国民春闘をたたかう決意表明を行いました。全労連女性部・東京女性センターの仲間は、若者たちの間で流行している「人の意見を聞かない、説明しな

い、アホすぎる」を意味する「アベすぎる」という言葉を紹介し、安倍政権の「アベすぎる」実態を告発しました。

出版労連から出版情報関連ユニオンの中嶋書記長が、東京都の最低賃金にはりつく時給 907 円で、社会保険加入もない下請の取次会社で働く仲間の実態を語り、「巷では時給 1,500 円でないと生活ができないという声があがり始めている。春闘で 1,000 円以上の賃金を求める。元請企業に対しても声をあげていく」と力強く決意を表明しました。

東京自治労連の喜入書記長は、この 12 年間で公務の仲間の賃金は平均 90 万円も下がったが、2 年連続でプラス勧告を勝ち取った。これは民間の仲間が春闘で奮闘し賃上げを勝ち取った結果だと強調し、「春闘での大幅賃上げを勝ち取るために、官民共同でがんばろう」と訴えました。

東京西部ブロックの仲間はおそろいの「最賃 1,500 円ジャンパー」を着て登場。「低賃金で働いている労働者にとっては最低賃金の大幅引上げは、人間らしく生活していく上で切実な要求だ。だからこそ、非正規雇用や未組織労働者の要求実現のために組織拡大に全力をあげている。労働組合の社会的役割を發揮し奮闘していく」と力強くスピーチが行われました。



日本医労連は、第 6 次安倍政権の後、自民党政権がつづき 4 度の戦争と相次ぐ社会保障改悪で国民生活が疲弊する 2050 年の日本を寸劇で演じ、「今、まさに命と平和が歴史的な岐路に立っている。『4 万円』の大幅賃上げ要求、社会保障改悪反対、戦争法廃止を掲げ、暗黒の未来にならないように先頭に立ってたたかう」と決意を述べました。

つづいて、全労連青年部・東京地評青年協の仲間が、「ボーナスほしい」「シフトを変えるな」「奨学金が返せません」「有休とらせろ」「給料上げろ」「最賃上げろ」「アフター 5 してみたい」など SEALDs 風のコールで会場を沸かせました。



JMIU 東京東部地協からは、15 春闘で 5 桁回答を引き出すなど、統一闘争に結集し、原則的なたたかいを貫き大きな成果を獲得したことが紹介され、「16 春闘でも先輩たちが培ってきた全員参加の春闘を貫きたたかっていく」と 16 春闘でも奮闘していく決意が語られました。

東京土建の仲間が決意表明のトリを飾り、各支部の旗が壇上に並びました。マイクを握った窪田副委員長は低賃金に置かれる建設労働者の実態を語り、「設計労務単価引上げを労働者の賃金に反映させるために、大手ゼネコン、自治体、国に対し声をあげていく」と述べました。

つづいて、行動提起を行った東京春闘共闘会議の井手口行夫事務局長は、「構えと本気度が問われる。」と強調し、2 月以降の中央や東京の行動を提起しました。

最後に集会アピールを採択し、国民春闘共闘の小田川義和代表幹事（全労連議長）の閉会挨拶と団結がんばろうでたたかう決意を固めました。

STOP暴走政治、戦争法廃止！ 壊すな憲法
暮らしをもる共同で、賃上げと雇用の安定、地域活性化